

科目名称:	社会福祉	
担当者名:	山田真由美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
社会福祉は、他の社会的制度・施策と同様に歴史的・社会的所産である。保育とは一見関係ないように思えるが、保育士を目指す学生にとって、社会福祉は乳児、子供から大人、高齢者まで全ての人の一生、人生に大きく関係する科目である。本講義では、保育士にとって社会福祉を学ぶことは必要不可欠であることを学生に理解してもらい、各制度・施策、法律を学習して活用できることを目的とする。		
授業の達成目標・到達目標		
社会福祉の歴史から制度・施策、法律の関するまで幅広い知識を身に付けて、それを活用できるだけの能力・技術を涵養することを目標とする。今日の社会で、保育士として必要な価値・知識・技術を身につけることを到達点とする。		

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)		40	40	20	100
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設職員	《経験年数1》 35年11ヶ月
	《内容2》 社会福祉士	《経験年数2》 20年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
社会福祉への知識を広げて理解を深めることができる。	教科書や参考図書を読み込み、広い知識を自分のものにできる。	教科書を読み込み、広い知識を得ることができる。	教科書を読み、社会福祉に関する知識を得る。	教科書への理解が深まっていない。
グループワークに積極的に取り組み、自分の意見を発表できる。	他者の意見を受け止め討論の内容をまとめて発表できる。	討論の内容をまとめて発表できる。	自分の意見を発表できる。	積極的な参加ができず意見がまとまらない。
課題についてよく理解したレポートを作成する。	自分の立場で考えた考察を文章にまとめることができる。	課題について自分の言葉で文章にまとめることができる。	課題について文章にまとめることができる。	課題の内容の理解が不十分である。
事前事後学習も必ずしており、積極的に授業に参加し意見発表もできている。	学びの姿勢が積極的であり、効果的に知識を得られている。	授業態度がよく、自分の意見発表をすることができる。	質問されれば答えることができる。	発表や質問をして参加することができない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 保育における社会福祉とは何か、学生間で討論し発表する。	今の段階での“社会福祉”についてのイメージをまとめておく。	40分
第2回 社会福祉の理念と概念についてグループワークする。	子供の幸せを支える社会福祉と保育について、自分の考えをまとめておく。	40分
第3回 社会福祉の歴史の変遷について、そこから学べる今日的課題についてディスカッションする。	社会福祉の歴史的背景と変遷について調べてまとめておく。	40分
第4回 社会福祉の法律・制度について学び、それを自分のものとして体得できるようにディスカッションする。	学習した法律・制度の具体的な運用方法についてレポートにしておく。	40分
第5回 子どもと家族の福祉について、今日的な問題と施策を理解できるようにグループワークする。	妊娠・出産から養育まで、子どもに関わる制度や問題を調べておく。	40分
第6回 子どもと家族の福祉について、子どもの権利を中心にグループワークする。	子どもの貧困、虐待の問題から、子どもの権利についてレポートにしておく。	40分
第7回 児童福祉施設について理解できるように学生間でディスカッションする。	児童家庭福祉にかかわる施設について調べておく。	40分
第8回 小テスト実施。社会保障を中心とした制度について学生間でディスカッションする。	社会保障の仕組みや必要性について教科書を読みこんでおく。	40分
第9回 障がい児・者福祉と保育について議論し、今日的課題を抽出する。	さまざまな障がいの種類についてまとめておく。	40分
第10回 障がい児・者福祉の法律と制度について、自分のものとして活用できるようにグループワークする。	ノーマライゼーション、インクルージョンについて調べておく。	40分
第11回 地域福祉の意義と保育との関係性について学び、議論する。	地域福祉を支える機関・団体について調べてまとめておく。	40分
第12回 ソーシャルワークと保育についての関係性を学び、保育における相談援助の重要性について議論する。	保育における相談援助とは何か、持論を展開できるようにしておく。	40分
第13回 社会福祉における生活支援について。低所得層に対する支援についての施策や法律を学び議論する。	生活保護の仕組みについて調べてまとめておく。	40分
第14回 高齢者福祉と保育士との関係性について学び、諸制度の活用方法についてディスカッションする。	介護保険制度について調べてまとめておく。	40分
第15回 まとめ。小テスト実施。	保育士にとっての社会福祉とは何か、自分の言葉でレポートにまとめておく。	50分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
2回の小テストで40点、毎回のレポート作成で40点、授業への積極的関与で20点とする。

課題に対してのフィードバック

毎回作成するレポートは評価し、コメントを付けて返却する。小テストも同様に返却する。

教科書・参考書

教科書：図解で学ぶ福祉 社会福祉 <第3版> (萌文書林)